※記事中の肩書等は、取材当時のものです。

いざという時に備える
葦穂小学校で自衛隊による防災教育を開催

５月８日（金）葦穂小学校で自衛隊による防災教育が行われました。大規模災害時の救助の様子などの講話を受けた後、３つのグループ（装備品見学・防災クイズ・応用担架）にそれぞれ分かれ、防災の知識を深めました。応用担架では身近なものを使った担架作りに挑戦し「力を合わせれば大人も運べるんだ！」と、実際に先生や隊員を児童たちが運んでいました。防災クイズでは既に行動ができている内容だけでなく、初めて知る内容も多くあり、防災に対する知識が増えたことで非常時の対応に自信がついた様子でした。

▲【写真左】防災クイズに挑戦！【写真右】応用担架で実際に隊員を搬送しました。皆さん真剣に取り組んでいました。

▲令和８年度は小中学生 25 人で活動します。18 人の指導員とともに、これからの１年間を通してものづくりにおける創意工夫を大切に活動をしていきます。

未来の発明王に向かって
第 39 回石岡少年少女発明クラブ発会式

昭和 63 年８月に「石岡のエジソンを目指して」発足して以来、来年は 40 周年を迎える歴史あるクラブです。これまで 1,200 人以上が創作活動に取り組み、県発明工夫展などで数々の賞を受賞してきました。

活動初日は文房具を観察して、工夫されているところや改善できる点はどこか、こんな文房具があればいいな、など「未来の文房具」や「夢の文房具」について活動しました。６月は特別講師に矢島木工房の方を招き指導のもと、レーザー加工を利用した作品作りに挑戦しました。

今秋からＢプレミアへ参入
茨城ロボッツの赤間選手がシーズン終了報告のため表敬訪問

５月 25 日（月）茨城ロボッツの川﨑篤之社長と赤間賢人選手が市を表敬訪問されました。茨城ロボッツはB1 リーグ戦を戦い抜き､5 月３日(日)をもってシーズンを終了しました。2026-2027 シーズンからは新リーグ「B.LEAGUE PREMIER（B プレミア)」に参入することが決定しており、現在は新シーズンに向けた準備を着実に整えています。令和５年からフレンドリータウン協定を結んでいる当市も、新たな舞台で活躍する茨城ロボッツをこれまで以上の熱い応援で盛り上げていきます。

▲【写真左】茨城ロボッツ 赤間賢人選手。赤間選手は身長 189㎝のシューティングガードで今後の活躍が期待されます。【写真右】株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント川﨑代表取締役社長、チーム公式マスコットキャラクター「ロボスケ」。

※記事中の肩書等は、取材当時のものです。

幌獅子の魅力を春にも
令和８年度春の獅子祭りが開催

４月29日（水）に行われた第２回目となるこの催しは、市が誇る伝統文化「幌獅子（ほろじし）」や獅子舞の魅力を広く発信し、次世代へと継承していくことを目的とした市民参加型のイベントです。

当日は約２万人の来場があり、会場となったいしおかイベント広場には、市内から個性豊かな20の幌獅子が一堂に集い、勇壮な獅子舞を披露して来場者を魅了しました。

今年は市の幌獅子文化をPRする2026獅子ガールズ＆獅子ボーイズが選出され、市公式マスコットキャラクターのししまる君と共に会場を盛り上げました。

▲重さが20kgほどもある獅子頭が、勇壮な獅子舞いを披露し、その迫力で訪れた多くの来場者を魅了しました。

▲【写真左】水戸ホーリーホック ジュニアユース飯田監督（石岡市出身）と６年生の児童たちが給食を一緒に食べ交流を深めました。【写真右】野菜ソムリエ・アスリートフードマイスターの南谷さんから食事の大切さや丈夫な体つくりについて教えてもらいました。

プロから学ぶ丈夫な体つくり
石岡小学校で野菜ソムリエと水戸ホーリーホックによる食育授業

５月22日（金）石岡小学校で５・６年生と保護者を対象に「ウルノ商事 presents 水戸ホーリーホック食育プロジェクト ～野菜ソムリエから学ぶ体つくり～」が行われました。水戸ホーリーホックで活躍した選手たちと、食事の大切さや野菜に隠された栄養素が身体に果たす役割を学び、毎日の食生活を見直すきっかけになりました。授業の後、６年生は給食を一緒に食べながらサッカーについてたくさん質問をしていました。食の大切さについて知ってもらうとともに、水戸ホーリーホックの選手たちと交流を深めることができました。

夏のお便りを書こう
吉生小学校の児童が手紙の書き方を学びました

５月28日（木）吉生小学校で３・４年生を対象に手紙の書き方体験授業が行われました。講師として訪れた日本郵便の職員から夏のお便りの書き方を教わり、一生懸命に取り組んでいました。ハガキは85円で全国どこでも送ることができる、という説明に改めて驚いていました。ハガキを書いていて分からない部分があるとその都度質問するなど、積極的な姿勢が見られました。手紙を書く機会は年々減ってきていますが、今回の授業を通して自分で文字を書いて伝える力やコミュニケーション力を育むことができました。

▲日本郵便の職員からハガキの宛名とあいさつ文の書き方を教わり、児童たちは文字を書いて思いを伝えることの大切さを学びました。